

## 発掘成果をふりかえって 2018

<http://www.kyoto-arc.or.jp>  
 (公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



発掘調査の位置

2018年度の発掘調査をふりかえってみます。下京区の烏丸綾小路遺跡では、市街地では初めて弥生時代中期前葉の集落と水田が見つかりました。



1 大敷遺跡・下久世横跡 南区久世殿城町

弥生時代後期の1辺約15mの大型の方形周溝墓と溝が見つかった。また、長岡京期の建物と、室町時代の建物や櫓、井戸なども検出した。



2 烏丸綾小路遺跡 下京区顔ヶ井通松原下の篠屋町(元龍泉小学校)  
 弥生時代中期前葉の集落。竪穴建物、水田に残る足跡などは当時の人々の暮らしを具体的に示すものである。



3 鷹山廃寺 右京区京北岡山町(岡山中学校内)写真左が北  
 白鳳期創建の古代寺院跡で西堂の礎石を再確認した。新たに平  
 組面が見つかり、その南斜面から多量の白鳳期の瓦が出土した。



**4 長岡京左京三条西坊六町跡** 伏見区久我西出町  
長岡京期の建物・柱列・井戸・溝・湿地などを検出した。一辺1.35 mの方形木枠組みの井戸は、長岡京内でも有数の大きさ。



**5 平安京右京七条一坊十二町跡** 下京区西七条北東野町  
平安時代前期から中期の建物・井戸・溝を検出し、宅地の様相が明らかになった。土坑から地鉄跡を発見した。



**6 北野廣寺** 北区北野下白梅町  
平安時代前期の埋納遺構を検出した。元慶8年の火災後の復興事業に伴うものと考えられる。



**7 特別史跡・特別名勝 廣苑寺(金閻寺)庭園** 北区金閻寺町  
鏡湖池の南側に礎石建物が見つかった。足利義満の北山殿のころのもので、南北6.0 m、東西5.4 mで、東側に縁が付く。



**8 史跡名勝高台寺庭園** 東山区下河原町  
江戸時代後期に再建された小方丈の基壇が見つかった。この下層では創建期の基壇も確認している。



**9 長岡京跡・淀城跡** 伏見区淀本町  
淀城二ノ丸東限の堀西兩部の石垣を検出した。使われていた石材は、伏見城の廢城石を転用したものと考えられる。